Aichi University

Lingua

INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION, AICHI UNIVERSITY

No.6 July 2015

クル＝シャーリフ・モスク（カザン）

（詳細は「ロシアでの出会い」 P4～　をお読みください）

CONTENTS

◎**特集　長期海外留学・大学院進学特集**

・長期留学のすすめ　国際コミュニケーション学部　山田美智子…… 2～3

・ロシアでの出会い　法学部4年　内藤　真晴…… 4～5

・文学研究科進学のすすめ　経済学部　伊藤　勳…… 6～7

・国際都市上海で世界に出会う―上海外国語大学留学記―　…… 8～11

国際コミュニケーション学部4年　伴野　花恋

地域政策学部4年　稲生　理沙

法学部4年　谷川　和歩

・就職までに大学院で学ぶという選択

国際コミュニケーション学部　河野　眞…… 12～13

・フランス長期留学のすすめ　法学部　中尾　浩…… 14～15

・留学体験記：留学があなたを変える

国際コミュニケーション学部　鎌倉　義士…… 16～17

・中国から世界へ：中国研究科進学のすすめ　経済学部　桑島由美子…… 18

◎　**語学教育研究室から**

・「選択」と「継続」で英語を学ぶ　法学部　小坂　敦子…… 19～20

・エッセイ：ロレンスの青い花（その1）　経営学部　山田　晶子…… 20～21

・レアリアのすすめ　国際コミュニケーション学部　塩山　正純…… 22～24

・フレンチポップコンクール　文学部3年　中山　遥…… 24

・ランゲージカフェ、シアタールームを利用して：短大の英語の授業やゼミの改善

短期大学部　ローラ・リー・クサカ…… 25

・愛大生こそポルトガル語を！

共通教育科目（ポルトガル語）講師　久保原信司…… 26～27

◎　**豊橋校舎ランゲージセンターの紹介**　…… 28～29

◎　**2014年度外国語コンテスト結果報告**　…… 30～31

長期海外留学・大学院進学特集

長期留学のすすめ

国際コミュニケーション学部
山田　美智子

もし留学を、とあなたが考えているのならまずは大学を選ぶことから始めてください。行きたい大学は提携校である必要はありません。アメリカでは○○大が有名だから行きたい、ではなく、○○大の○○学部で専門にやっている○○がやりたい、ということを基準にして選ぶので、まずはそれぞれの大学の学部の特色を調べて、どこの大学に行きたいか選ぶことが大事です。

またアメリカの大学だったら、ある程度の大きなところなら英会話学校が付属として付いていて、アメリカの大学（あるいは大学院）に入る際に英語を母語としない人が提出しなくてはいけないTest of English as a Foreign Language（TOEFL）の点数が一定に達していない場合、あるいは達していても本人が望んだ場合、一学期間英会話学校に進むことが出来ます。そしてその後TOEFLの点数が足りなかった学生はもう一度TOEFLを受け直して一定の点数が取れれば大学に入れます。

出来れば大都市に行くのは避けた方がいいのではないかと思います。皆さんが行きたいのは多分にNYやLA、シカゴといった大都市だと思いますが、そうした大都市の大学の英会話学校には日本人が多く、どうしても日本語を話してしまいますから、あまり日本人がいないような小中規模の都市の大学の英会話学校、そして大学（あるいは大学院）に進み､その後日本に戻って来る前に大都市に旅行に行くなどしてはいかがでしょうか？

アメリカの大学は勉強するところ、です。学生は良い成績を取るために学校に行くので、必死で勉強しますし、１クラスにつき一学期の中で、Paper（アメリカ英語ではレポートはPaperと言います）２回提出、テストも２回、プレゼンが１回、と次から次へと課題が出されます。また大学院に行けばものすごくたくさんの本を毎週読まなくてはいけません。

クラスでもどんどん発言することが求められます。もちろん100人以上のクラスなどでは日本同様講義が主になることもありますが30人前後の小さなクラスでは、クラスで発言することが求められ、それがClass participationとして成績の一部になります。

アメリカの大学は日本と逆で、入るのは比較的簡単ですが、卒業するのはとても大変です。大学での成績も就職の際に重要ですから学生も必死でいい成績を残したいと思っています（ただアメリカではボランティアなど、学校の外で何をやってきたかもかなり重要な意味を持ちます）。日本の大学で勉強したことをもっと深く踏み込んで勉強したいと思うなら、是非アメリカやイギリスの大学（あるいは大学院）に行ってみてくださいね。

ただ、一般のアメリカ人の話す英語は、日本である程度学んだと思っていた英語よりものすごく速い（と最初は思いました）ので、最初はとまどいばかりで、思うことが言えずにいました。大学生はもう少し年上の大学院に来る方々に比べると特に早く話すので本当に大変でした。でも１年弱くらい経つとようやく周りのアメリカ人が何を言っているのか、なんとなくですが分かるようになります。ですから、英語習得のためには皆さんには出来れば一年前後留学していただけたらと思います。それでも話す方は大変でしたが、「相手が言っていることがなんとなく分かるようになった」というのは本当に大きな違いであり喜びでした。

ただ語学の勉強は抜きにしても、海外に行き、たとえ１週間でも「異文化に触れる」ことはとても大切です。私達は日本を出て初めて「日本」に気づくのです。たとえば、レストランに行って注文した後で何か欲しい時は、誰でもいいからレストランで働いている人にお願いしますよね。ところがアメリカでは暗黙の了解として注文を取った人＝自分のテーブルの世話をしてくれる人、なので、基本的にはそのオーダーを取ってくれた人にお願いするのです。これは多分にアメリカにTipのシステムがあるからで、自分のテーブルを世話してくれた人にTipを払うからだと思います。でももちろんこういった「暗黙の了解」は言われない限り気づきにくいですよね。私はこれを知った時に、如何に自分が日本を基準に考えていたのか、そしてそれがアメリカでも通用するのだと当たり前に思っていたかに気づきました。つまり「日本を出て、日本とは違う、でもその国では『当たり前』の世界に囲まれて初めて『日本の当たり前は違う国では当たり前ではない』と気づく」ということが、日本を出て初めて「日本」に気づくということなのです。留学はこういった「気づき」の連続です。ご存じの方もいるかと思いますが、日本のLサイズのドリンクがアメリカではSサイズだということ、バレンタインもクリスマスも決してカップルだけのものではないこと、そして「やったね！」を意味するHigh fiveというジェスチャーが最初分からなかったことなど、戸惑う時も楽しい時もあって、こうした発見の連続は驚きに満ちていて誤解が生まれることもありますが、それは日本では味わえなかった喜びや楽しみを見つけることでもあるのです。皆さんも是非異文化体験をしつつ勉強も頑張ってくださいね！

ロシアでの出会い

法学部４年　　内藤　真晴

2014年８月、私は夏季休暇を利用して２週間ほどロシアに行ってきました。ロシアでは首都モスクワをはじめ、サンクトペテルブルク、カザンという３つの都市を周りました。どの都市もそれぞれ特徴があり素晴らしい場所でしたが、今回は特に印象に残っているモスクワでの出来事について紹介したいと思います。

私は海外旅行が好きで、これまでも色々な国に行ってきたのですが、その際に宿泊で利用するのが「ユースホステル」という施設です。「ユースホステル」は１泊あたりの料金が非常に安く、ドミトリーと呼ばれる相部屋で世界中から来た旅行者と一緒に過ごすことになります。

今回、モスクワのユースホステルでは２人組のドイツ人と出会ったのですが、彼らとの出会いは私にとって非常に素晴らしいものとなりました。名前は「ベンジャミン」と「マクシミリアン」。最初の出会いは、私がカザン（今年の世界水泳開催地）から夜行列車に乗ってモスクワに着いた朝のことです。

彼らはシベリア鉄道でロシアを横断しモスクワに到着したらしく、なんとロシアに来る前には日本にも立ち寄ったそうで、Jリーグを観戦した写真を見せてくれました。私もサッカーが好きで、これまで観戦してきた写真を彼らと見せ合っているうちに、意気投合し一緒に観光しようということになり赤の広場やボリショイ劇場などモスクワの観光名所を見てまわりました。

観光の道中は、お互いの国についての会話で盛り上がりました。彼らは日本のことを気に入ってくれたようで、特に人が親切な点や、食事がおいしい点を褒めてくれました。また、私

モスクワダービーの様子

ロシアを代表するバレエ劇場・ボリショイ劇場(モスクワ)

赤の広場（モスクワ）

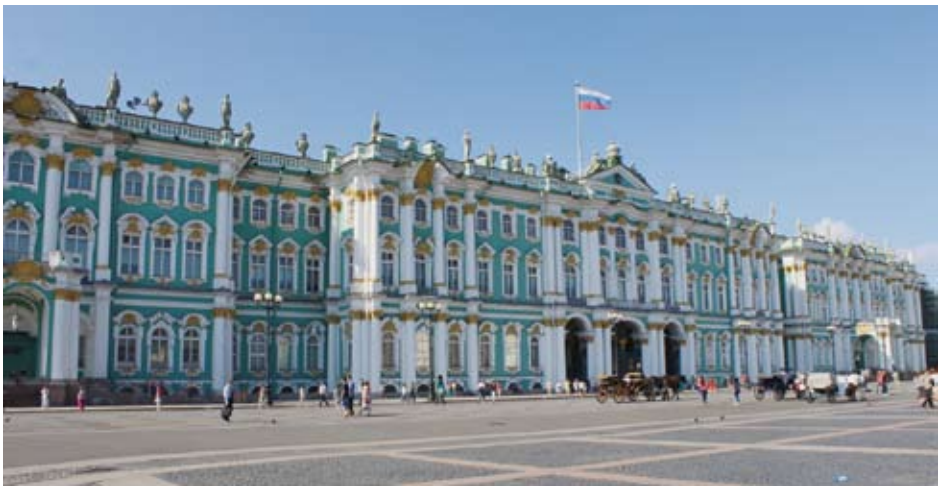
がブラジルで行われたサッカーのワールドカップでドイツ代表が優勝したことに触れたときに見せた誇らしげな彼らの表情はとても印象に残っています。週末には３人でサッカーの試合を観に行きました。観に行った試合は、日本代表の本田圭佑選手もかつて所属したCSKAモスクワ対スパルタクモスクワの一戦。

同じ街にチームを置く両者の対戦は「モスクワダービー」と呼ばれるロシア国内でも屈指の好カードです。試合前から両チームのサポーターのテンションは高く、相手の選手がウォーミングアップでピッチに姿を現すと罵声を浴びせ、スタジアムには殺伐とした雰囲気が漂っており、静かな日本のスタジアムとは比べ物にならないほどでした。

試合はスパルタクモスクワの勝利で幕を閉じました。

こうしたロシアでの出来事は私にとって非常に思い出深く貴重な経験となりました。

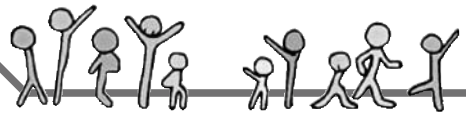
彼らとは現在もSNSを通してやりとりをしており、いつかは彼らの故郷であるドイツを訪れることが出来ればと考えています。最後にロシアというとあまり良い印象を持たない人が多いのかもしれません。しかし実際にはそんなことはなく、とても魅力のある素晴らしい国です。ぜひみなさんも機会があればロシアを訪れてみてください。



世界遺産エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク）

（ロシア留学については次号にも掲載予定）

文学研究科進学のすすめ



経済学部　　伊藤　勳

マルコ･ポーロ（1254~1324）の『東方見聞録』は、誰でもその書名は知ってはいても、それを全巻読み通している人は少ないであろう。少年マルコは父と叔父に同伴して、1270年にヴェネツィアを立ち、中央アジアを経て1274年夏に元の夏の都上都に到着した。そしてその後元朝で要職に就きそこで十七年間滞在して､1290年末、泉州から海路帰国の途に就き、1295年にヴェネツィアに帰国した。

マルコの帰国後、1298年に勃発したヴェネツィアとジェノヴァとの戦争に志願兵として参戦した時、捕虜となり、牢獄の中で同室の囚人で物語作家のピサのルスチケルロにこの大旅行の話をした。マルコはヴェネツィアの父の許から厖大な旅行記録を取り寄せて口述した話をルスチケルロが筆記して、この名著が世に残されることになった。

この本を読めば、当時のペルシアや中央アジアや中国の様子、その風俗習慣や民族事情や生産活動など様々な知識を得ることができるのみならず、マルコの学習姿勢とその観察的態度に大いに啓発されるところ少なしとしない。その綿密詳細を極めた旅の備忘録には驚嘆せざるを得ない。知的好奇心とその観察眼、そしてそれを支える抜群の語学力に先づは注意しなければならない。

元が支配する地域で通用していた言語はモンゴル語、ペルシア語、トルコ語、ギリシア語である。マルコはこれらの言語にすべて習熟していた。マルコが経由していった中央アジアの共通語であるトルコ語とペルシア語も、その途次覚え､旅の記録に資することになったのである。ただマルコは中国語はできなかったらしい。元朝は漢人を信頼せず、役人の長はモンゴル人と色目人（西域の諸民族）に限定して漢人を支配しており、マルコもその関係からか、中国人社会とは接触が極めて少なかったことによるものだと言われる。換言すれば必要とする外国語は貪欲に吸収していったのであろう。

内容は直接体験に基づくものばかりではなく、旅の先々での伝聞も含まれている。日本に関する記述もその一例にすぎない。日本を訪れた訳でもないのに、黄金のジパングとして金の産出の豊かさを述べていることは周知の通りであるが、日本人は人肉をどの肉よりも旨いと言って捕虜を殺して食う習慣があるなどという驚くべき誤解が記されているのも、根拠のない伝聞に拠った誤った記述であろう。

しかし知的好奇心の権化のようなマルコには、視点が定まっていた。マルコの父ニコロはマルコを同伴する以前に、本国を遠く離れてコンスタンティノポリス、クリミア半島、ボルガ流域、そして終には上都にまで奇貨の売買を求めた生粋のヴェネツィア商人である。それ故にマルコ自身も商人としての観察眼が冴えている。中央アジアの鉱物資源や、日本には金が潤沢にあるという記述もそうした視点からの記録である。皇帝の命を受けて中国の西北辺境や雲南を視察した時も、その生活様式に関わる産業に注意し、例えば舟運の荷の種類やその数量、舟の通運数等を記すなど、その記録は詳細を極める。マルコはその土地土地の風俗習慣を語っ

コインブラ大学（1290年設立，ポルトガル）

て読者を楽しませるが、それは対象をどの観点から見るかという批評的観察眼に支えられているからである。

戯曲『サロメ』、童話『幸福の王子』或いは『獄中記』などの傑作で知られる十九世紀末の花形オスカー・ワイルドは、近代風のリアリズムとは無縁の物語性豊かな歴史書や旅行記の代表例として、それぞれ古代ギリシアのヘーロドトスの『歴史』と『東方見聞録』を挙げている。単なるリアリズムでは逸美な藝術は生み出されないのと同様に、単なる実証主義では事物の本質に踏み込めず、優れた研究成果は見込めない。批評的観察眼を通して集められた事実に基づく資料は、想像力の糸で縫い合わされて、物語性を持つ有機的な形に纏め上げることによって、初めてより真理に近づき説得力を持つ作品となる。

利潤追求の商魂と藝術とは一見対蹠的関係にあるかのように見えるが、『東方見聞録』は謂わば商魂によって生み出された藝術作品である。それを可能にしたのは、知的好奇心とそれを支える外国語能力、確たる視点に拠る批評的観察眼、物語性を保障する人間味に溢れた豊かな想像力である。マルコに認められるこれら資性は普遍的価値を持っている。

殺伐とした世相の昨今、教員を志す学生にはマルコの生き方は多くの示唆を与えるに違いない。愛知大学は東海地方に数多くの教員を送り出してきた実績を持つが、ひと頃に比べその数は下降線を辿ってきた。それでも最近また少しづつ上向き始めており、過去五年間で東海三県で八十名の卒業生が教員となって教育界の一端を担っている。教員は教養と専門性が先づは求められる職業である。教員志望の学生は、できれば大学院修士課程に進み、専門性を深めるとともに理路整然たる論文を書くだけの筆力を高め、深い思考力と識見を持って一段と高い指導力を発揮することが望まれる。

ケンブリッヂとカム川

―国際都市上海で世界に出会う―
上海外国語大学留学記

上海留学体験記

国際コミュニケーション学部４年
伴野　花恋

私は大学３年次の１年間、上海外国語大学の漢語研究生として交換留学に行っていました。留学が決まった際、「なぜ、英語専攻の学部でありながら中国へ留学するのか」、と周囲からは不思議がられました。中国へ行ったことのない人や、中国について深く知らない人は口を揃えて「中国は危ない」と言います。しかし、それはどこの国であっても同じです。日本にいたって、自分が気を付けていなければ犯罪に巻き込まれることもある。確かに日中関係は、歴史的な問題もあり複雑なものですが、普通に生活していればそれを理由に犯罪に巻き込まれることは少ないでしょう。

学校のクリスマスパーティーで

留学先として、中国が特別に危険ということは一概には言えないということを知っておいて欲しいです。私にとって中国は、その長い歴史で育まれてきた文化と、急速に進みつつある現代化が入り混じった、活気のある、とても魅力的な国です。

国慶節の南京東路

留学を終えて、一年は長かったねと、よく言われますが、私にとってこの一年は本当にあっという間のことでした。それほど毎日が刺激に満ちていて、一日一日があっという間に過ぎていきました。留学が決まった時の私の中国語のレベルは、一緒に交換留学に行くメンバーの中でもかなり低かったと思います。上海についた初日は、自分の言いたいことが一言も話せなくて本当にここで生活していけ

学校の校庭で友人らと

るのか…と不安になったのを覚えています。日本にいたら気にすることもなかったような、ふとした一言が中国語で言えないことはとてももどかしかったですが、その分「死ぬ気で頑張ろう」と思えました。授業は全部中国語なのでリスニングの力は自然とついていきましたし、外国人のクラスメートたちと中国語を使ってコミュニケーションを取っていく中で、会話にも慣れていきました。一年経って、中国人と日常会話が出来るようにまでなったので、以前と比べると語学力はかなり伸びたと思います。

もちろん、留学生活は楽しいことばかりではありませんでした。今でこそ一年はあっという間だったと言えますが、上手くいかず、辛かった時期には早く帰国したい、もう耐えられない、と日本にいる友達に電話したこともあります。

しかし、家族や友達、特に向こうで出来た友達には大変助けられ、支えられ、気が付くと帰国日になっていました。国は遠く離れていても、彼らは私にとって一生忘れることのない、本当に大切な友達です。

本当はもっと伝えたいことが沢山あるのですが、上手くまとめることが出来ず抽象的な体験記となってしまいました。ただ、留学を通して得られるものは、語学力だけではありません。その国の本当の姿、そこに集まる他の国々の文化、外から見た日本、多くのことを学ぶことが出来ます。私はこの留学を通して、自分自身を大きく成長させることが出来たと思っています。

これが上海なのです！

地域政策学部4年
稲生　理沙

第二、第三も留学先の選考からはみ出して、再投票でやっと行き先が決まったその時、とりあえず上海についてこっそりググっていました。

星が見えないほどまばゆい夜景､ジェームズ･ボンドが暗躍しているだろう鋭くそびえ立つビル、西洋と東洋が融合した古めかしい建物などいろいろな表情の上海が検索されました。

けれども、行く前の私のイメージはかなりあいまいなものでした。

そこで、少し上海の大まかな印象と中国に留学して生活するというのを書いていきたいと思います！

上海の魅力その①：外灘（ワイタン）の夜景

上海は地震がないので、歴史的な建造物があちらこちらに建っており、こんなところに素敵な洋館が！と散歩するだけでもかなり楽しい街です。また日本ではありえないほど高く斬新な建物も多くあり、上海の独特な景観を演出しています。上海の中心地である外灘はそんな新旧ひしめく建物を華々しくライトアップしており、中国人の友達と夜景を見ながら、たのしくおしゃべりしていました。ここに来ただけでも映画の世界に入り込んだようで、上海を選んでよかったなと思っていました。

上海の魅力その②：開放的な街

上海は歴史的に外国人の多い街です。日本や韓国など近い国のみならず、ロシアやヨーロッパ、特にイタリア人、スペイン人が多く住んでいて、ほかの中国の土地に比べて、外国人に対する物珍しさはありません。なれっこってことなんです。

留学中の交流

私の学校では午前８時から授業で、午前中に終了するので、午後はだいたい中国人の子たちと勉強していました。初めは、中国人の友達がいなかったので、多少は孤独でしたが、交流会に積極的に参加し続け、だんだん友達になっていき、その友達からまた違う友達を紹介してもらい、友達の輪が広がっていきました。

友達とは一緒に餃子をつくったり、旅行に行ったり、誕生日パーティーと、遊びも勉強も充実した留学でした。

もし中国留学をするのであれば、ぜひ自分から動いていろんな中国人の方と接してみてください。語学を勉強するだけでは解らない文化の違いを学んだり、メディアからだけでは解らない生の中国に触れる事ができるはずです。

中国・上海留学体験記

法学部４年　谷川　和歩

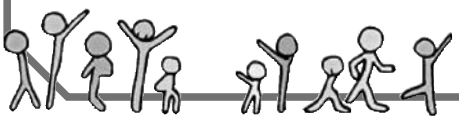
私は平成26年３月から上海で過ごす中国留学に参加しました。上海は中国の中でも海外とのつながりが極めて深い国際都市であり、活気に溢れています。

私は上海外国語大学で多くの国の留学生と同じ教室で中国語を学ぶことになりました。授業は中国人の先生が担当してくれる内容に富んだものでした。文法、リスニング、会話等の基本的な授業だけでなく、中国の文化面に触れることのできる授業も多くあり、語学面だけでなく中国という国そのものについて知ることができる内容になっていました。また上海外国語大学は外国語大学であるだけに、各国の留学生と中国語を学べるというメリットもあります。世界中に友達を作ることができるだけでなく、世界のいろいろな文化を知ることができ、自分の視野を広げることができました。

上海には普通語とは全く異なる上海語というものがあります。自分の中国語が通じるか心配になる方もいると思いますが、実際は普通語が隅々まで行き渡っており、問題なく日常生活を送ることができます。自分は街中の人に積極的に話しかけることで現地の中国人とのコミュニケーションを楽しむことができました。留学生活に慣れてきたら積極的に外へ出ていろいろな中国を垣間見ることができるのも留学の利点の一つです。上海はアジアでもトップクラスの観光地であり、見どころが多くあります。上海外国語大学は中心地にも比較的近く、交通の便もとても良いです。また上海は二つの国際空港、三つの鉄道駅がある中国交通網の重要拠点でもあります。慣れてくれば自分でネットを利用して新幹線や飛行機のチケットを予約し、中国各地を旅行することも大変勉強になります。自分は留学期間中、北京、四川、西安、近場では新幹線を利用して蘇州や杭州を訪れました。南方の上海で学んだ後に北方の北京や西安に行くと文化の違いや発音の違いを感じることができ、とてもいい経験になりました。

留学で得たものは大変多く、一年間の留学生活には大変満足しています。留学というのは単純な語学力を鍛えることができるだけでなく、文化や生活に密着した知識も知ることができます。また国内外の多くの方と出会うことができ、自分の見識が大変広くなります。努力次第で自分を成長させることができる留学へ、機会があれば皆さんも参加してみてください。

就職までに大学院で学ぶという選択



国際コミュニケーション学部
河野　眞

学部を卒業の後、二年間を大学院で勉学を深めるという選択肢について案内しよう。愛知大学には、現在、6つの研究科が設けられている。法学、経済学、経営学、文学、中国、そして国際コミュニケーションである。課程は博士前期（＝修士課程）2年と後期3年から成っている。この他、法曹関係の実務家を養成する法科大学院（ロースクール）がある。このため法学研究は博士後期課程のみ、また国際コミュニケーション研究科は、少し考え方があって、修士課程のみである。学部卒業生が入るのは、先ずは修士課程（＝博士前期）である。

学部での勉学を終えた後、もう少し専門的な勉強をしたいという気持ちをもつ人は少なくないだろう。特定のテーマの下に、ある程度まとまった分量の文章を書くのは卒業論文が実質的には最初という人もいる。そこでようやく自分には何か取り組むべきテーマあることが分かるということもあるだろう。しかしそれを振り切って実社会にでてゆくほかない、というのが一般の選択と思われる。それに対して、もう二年ほど大学で自分なりの何らかのテーマで調べたり書いたりする方が将来に対して自分独自の原点をつくることという考え方もある。実際、今日の日本の大学の多くでは、学部教育は一般教育の性格が強くなっており、専門性を言うにしては物足りない。そのため、専門教育を本格的に行なうのは大学院で、という傾向が強まっている。

大学院での勉学・研究はキャリアの点でも、案外役立つことがある。たとえば国際コミュニケーション研究科の英語部門を選択した場合、英語教員の専修免許を得ることがかなり容易になる。また、それぞれの研究科が指定している教職について資格のグレイドを高める道が開かれるが、もちろんそれには学部での教職課程修得が前提になる。この他、一般的にも修士資格をもっていることが評価される社会の現場は少なくない。理系の場合は、大学院でかなり専門的な研究や実技を身に付けることが多いが、文系でもその傾向が少しづつ高まっている。

しかし、そうした効用はともかく、先ずは、勉学・研究への関心と意欲を満たしてくれる場であることが大学院の最大の魅力であろう。ちなみに修士課程2年間で必要とされる履修単位は32単位、また博士後期は3年間で8単位である。したがって単位数はあまり負担ではない。しかしその中身はほとんどが専門的なもので、それが系統的に整えられている。むしろ、限られた専門分野の科目だけになることに対して、幅広く物を見る目を養うために調整が課題になるほどである。ともあれ、自分が選んだテーマ

について思い切り時間をかけて調べたり考えたりすることができる。テーマは指導教授と相談して決めることになるが、一般的に言えば指導教授はアドヴァイスをするのであって、客観的に無理なものでもないかぎり大学院生の希望するテーマを立てることできる。独自なテーマの設定に迷うこともあるが、何か自分なりのものを表現したいという人には打ってつけの数年になるだろう。なお実際的なことを言い添えれば、愛知大学の学部から本学の大学院へすすむ場合には、（多くの大学が設けている制度だが）入学金の減免の特典もある。

筆者が属しているのは国際コミュニケーション研究科なので、具体的な事例としてこれを話題にする。この研究科は、国際コミュニケーション学部の教員だけでなく、本学の５つの学部と短期大学部から教員があつまって教員組織ができている。6 つの研究科のうちもっとも新しく、1998 年に発足した国際コミュニケーション学部の完成年度の 2002 年に第一期生が入学した。専門の中身では、国際コミュニケーション研究科の場合、三つの領域（専門の種類からは四つ）に分けられている。一つ目は言語研究領域として英語研究と日本語研究、二つ目は多文化間比較研究領域、三つ目は国際関係研究領域である。したがって、英語学科と比較文化学科から成る国際コミュニケーション学部の構成とほぼ重なっているが、かなり弾力性を持たせている。このうち最も科目が豊富なのは英語研究部門である。

これまで大学院生が取り組んだテーマは実に多彩であるが、ほんの数例だが挙げておこう。英語研究領域では、「コーパスをもちいた英語の語用論」や「チョーサーの英語」、日本語教育では「中国人のまちがいやすい日本語初級の改善方法」、国際関係研究領域では「化粧品市場の日中比較」、「アニメ文化の台湾における動静」、「ヴェトナムにおけるブライダル産業の今後」などがあり、また筆者が担当している多文化間比較研究領域では、「狭い生活世界の各国比較」や「地方における観光資源の再構成」などがある。また目下は「人形の伝統をめぐる日中比較」というテーマに取り組んでいる院生がおり、そのため基本書として和辻哲郎『日本芸能史：歌舞伎と操（あやつり）浄瑠璃』という古文書がたくさん出てくる 700 頁もある本を中国の留学生と一緒に読んでいる。また海外での調査を行なう院生も多く、それには大学から補助金を受けることができる。

他にも案内したいことは幾らもあるが、今回は一口情報である。

フランス長期留学のすすめ

法学部　　中尾　浩

愛知大学のフランス語部門には現在、長期留学先としてオルレアン大学とパリ大学ディドロ校の２カ所があります。それぞれに留学中の学生に原稿を書いてもらいました。いずれの学生もフランスに行く前に２年半、日本でとても熱心にフランス語を学んでいましたが、おそらく行ってから学んだことの方が多いと思います。日本はもはや明治初期のような欧米に追いつけ追い越せといった国ではありません。部分的には欧米より日本の方が優れている点もあります。たとえば治安は日本の方がフランスより優れています。

しかし、今でも日本はフランスから学ぶことがたくさんあると思いますし、行って初めて判ることもたくさんあります。この原稿を読んでくれている皆さんにも、ぜひ自分の目で確かめるために海外に飛び出していって欲しいと思っています。

世界中の留学生と一緒に（オルレアン大学）

中尾 浩（法学部）

国際コミュニケーション学部４年
石川 奈穂（オルレアン大学）

私は今、フランスのオルレアン大学に交換留学をしています。「お菓子の本場でお洒落な国」という漠然としたイメージから、私はフランスに興味を持ち始めました。一方で、それまで一度も海外へ出たことがなかった私は、便利で居心地の良い日本での生活に満足しており、自分が海外で暮らすことなど想像もつかないことでした。しかしそれは、留学への最大の決め手でもありました。自分は日本が大好きだからこそ、一度外に出てみようと思ったのです。

留学開始直後は、環境の違いに戸惑い、言葉はほとんど聞き取れず、「はい」と「いいえ」でしかコミュニケーションがとれなかった私にとっては、授業でも生活でも困難ばかりの毎日でした。時には逃げ出したくなることもあり、語学面でも精神面でも、自分の未熟さをひしひしと思い知らされました。しかしその困難は私を大きく成長させ、向上心を与えてくれました。

そして、徐々に他の人の前で自分らしさが出せるようになっていき、周囲の人がそれを認めてくれたときから、私の留学生活はそれまでとは打って変わって、毎日が楽しく充実したものとなりました。そこからは、人と接し、友達の輪が広がっていくのが嬉しくてたまらなくなりました。クラスの様々な国籍の友達、学校や寮

で出会ったフランス人学生の友達、日本語教室のボランティアを通して出会った様々な年代のフランス人…色々な人と関われば関わるほど、様々な驚きや発見があり、自分の中で「常識」だったことは壊れていき、自分の考え方、ものの見方はどんどん広がっていきました。

友達という最高の先生に助けられ、私は日々多くのことを学んでいます。言葉や文化、考え方など、多くを知れば知るほどますますフランスという国と、そこに住む人々を好きになっていきます。この国に留学に来てよかったと、心からそう思っています。

国際コミュニケーション学部４年
牧 ひかり（パリ大学ディドロ校）

私が１年間の交換留学にきているパリ大学ディドロ校（旧パリ第７大学）はヨーロッパ最古の部類に入る歴史あるパリ大学のうちのひとつです。様々な学部があり、フランス語の授業と並行して興味のある学部の授業を履修することが出来ます。学部の授業はフランス人の学生

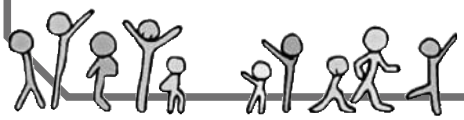
世界中の留学生と一緒に（パリ大学）

が通常受けている講義なので一筋縄にはいきませんが、ディドロ校には日本語学科があり日本語を勉強している学生がいるのでお互いに言語を教えあい、協力しながら勉強することが出来ます。私は言語学を専攻していくつか授業をとっていますが日本では英語、又は日本語からの視点でしかみたことのない言語学をフランス語の視点でみるので発見も多く、ますます色々なことが知りたくなり勉強に励んでいます。フランス人の学生、また私と同じようにパリ大学に留学している他国の学生は本当に意識を高く持ち勉強に励んでいる人ばかりで、多くの刺激をもらう毎日です。

パリはエッフェル塔からサン・ルイ島にかけての一帯が「パリのセーヌ河岸」として世界遺産に登録されています。街自体が世界遺産のような場所で暮らすことができるので少し歩けばノートルダム大聖堂などの歴史的建造物をみることが出来ます。週末の朝はパリの街中で開催されるマルシェに赴くとパリジャンの生活を垣間見ることができ、観光都市としてだけではないパリを感じることが出来ます。また芸術の街でもあるパリでは多くの美術館があり学生であれば無料で気軽に入ることが出来ます。数々の有名な作品を鑑賞でき芸術に触れることができるのもパリならではだと思います。

パリは様々な文化や学問、芸術が集まる場所なのでもっと色々なことを知りたい、勉強したいと生活をしていくうちに強く思うようになりました。語学だけではない文化や芸術、歴史、建築にも興味が湧き、少しずつですがこの目で見て感じて、勉強を始めています。日本で勉強しているだけでは気がつくことが出来なかったことをたくさん学べます。パリ大学へ留学したおかげで数え切れないほどのことを吸収して自分のものにすることができると思うので、留学期間はあと少しですが勉学に励みたいと思います。

留学体験記：留学があなたを変える



国際コミュニケーション学部
鎌倉　義士

スペイン（10ヶ月）・メキシコ（３ヶ月）・台湾（２ヶ月）・シンガポール（３ヶ月）・イギリス（７年）。これらは全て私が留学した国々です。それぞれの国でスペイン語、中国語、英語を勉強しました。

20歳のときに海外旅行の経験もないまま、スペインへ留学しました。私は大学では外国語学部で英語を専門に勉強したいと考えていました。しかし、当時好きだった女性にふられ、浪人する気が起きず、合格した経営学部に入学しました。入学後も外国語を勉強したい気持ちは変わらず、第２外国語として選択したスペイン語を努力して学びました。２年勉強した後、単身スペインに留学したのですが当初は辛いことばかりでした。スリが多いと聞いたマドリッド市内では、大事なパスポートを抱えながらトイレの個室に入ったものです。スペインは女性を大切にする国です。留学しても会話に入れなければ、男子学生はその場にいないように扱われます。そこで会話力の重要さを痛感しました。

メキシコにはスペイン留学後、大学に復学した後の夏休みに留学しました。スペインで学んだため、メキシコでもスペイン語で対応できたのですが、同じスペイン語の国でもこれほど異なるかと驚き､却って違いに戸惑ったものです。台湾やシンガポールは大学院への進学前と企業への就職前の時間を利用して留学しました。英語とスペイン語ができるようになり、次は中国語だろうと考え､勉強を始め留学したのですが、自分の中国語のセンスの無さに愕然としました。今でも私は中国語が下手です。苦手な言語を学ぶ経験は、今では教える立場として役立っています。

最長期間の留学は、大学教員になる前に７年間過ごしたイギリスでの勉強でした。当初は３年の予定だったのですが、博士号取得まで７年かかりました。７年かけて学んだ英語は私の強力な武器です。それまでの留学と異なるのは、「語学留学」ではなく学位取得のための留学であったことです。それまで留学を経験しても、１年を通してひとつの場所で過ごすという経験をしていませんでした。ある場所で生活することで、語学留学では経験できないことも学べたと思います。さらに、妻を連れての留学は７年という長く辛いときでも、二人で支えあって乗り越え、最後に息子と共に帰国することができました。

イギリス・バーミンガム大学卒業式

留学経験は私の人生を変えてくれた貴重な経験です。私は英語と言語学の教員として、みなさんに学生時代に留学することを是非とも勧めたいと思います。

外国語を話せることが私の留学の目標でした。私は学部生の時には経営学部に所属しており、留学での勉強は単位履修に反映されませんでした。自分が留学した証は言語を使えるようになること、即ち、「話せるようになる」ことでしか留学した経験を活かせないと信じていました。留学先では、英語やスペイン語を日本の大学で専門に勉強する学生がたくさんいて、彼らに負けないためにも、話すスキルは負けないように努力してきました。小さな頃から夢であった「外国語が話せる」ようになれたとき、大きな自信を持つことができました。そこから、何事にもやればできるはずという自分への信頼が生まれました。

留学の経験がもたらすものは自信だけではありません。それまで私のことを支えてくれてきた人たちの大切さにも気づきました。留学は自分の住む場所から離れ、一人で異なる環境に飛び込みます。現地ではいろいろな問題に一人で立ち向かわねばなりません。そこで、これまで自分を助けてくれていた家族・両親・友人などの大切さに気づかされます。留学前は、私にとって両親は当たり前の存在でした。私を助けてくれることが当たり前だと甘えていました。しかし、留学が終わり帰国した時には、両親を独立した個人として接することができるようになりました。これは両親のこれまでの努力や優しさが理解できたからです。自分の居場所から離れて暮らすという経験は自分の人間関係を客観的に見る機会を与えてくれます。

自信や人間関係への気づきだけでなく、留学は「考える時間」を与えてくれます。大学生活は授業やアルバイトで一人になる時間はあまりありません。留学中に就業は不可能なので、少なくとも仕事からは解放されます。そして、日本にいる時のように友人からのお誘いは多くありません。そこで一人で過ごし、これからどのように生きていきたいのか、じっくり自分と向きあう時間を持つことができます。留学から帰国した学生の顔つきが変わるのは、この自分と向き合う時間があるからではないでしょうか。

私が好きなプロレスの世界では、若手の選手がひと皮剥けるために海外武者修行を経験します。武者修行後の若手は、見た目も顔つきも以前とは全く変わり、トップ選手として駆け上がっていきます。海外経験は人を変えます。皆さんも留学経験で自信を持ち、周囲の人に感謝し、じっくり考えた後は全く異なる自分へと成長できるでしょう。留学は大きく成長できる機会です。是非経験してください。

メキシコ留学

中国から世界へ・中国研究科進学のすすめ

経済学部
桑島　由美子

伝統ある中国研究・全国的な知名度

学部で長期留学が実現できれば理想的ですが、実際には専門科目の勉強に追われ、４年間は瞬く間に過ぎてしまうでしょう。ここでは、大学院に進学してから長期留学や、中国語でのキャリアアップを考える学部生のために、中国研究科の紹介をさせていただきます。

私が愛知大学の中国研究科で講義や演習を担当するようになってから､16年目になりますが､愛知大学の伝統でもある中国研究において、アカデミズムを標榜する本学中国研究科は、他大学に無い、数多くの特徴があります

本研究科は、中国研究においては全国的にも知名度が高いので、東海地方のみならず、首都圏や関西など他大学からも多くの受験生が集まり、他大学の学生と共に勉強する機会でもあります。また海外から著名な研究者を招聘し、集中講義や、講演会を随時開催しており、第一線の研究に、随時触れることが出来ます。

専攻に関わらずどの学部からでも、中国研究科に進学できますし、新しい研究分野にチャレンジすることも出来ます。もし研究に関心があり、学部で中国語を修得していれば、誰にでも門戸が開かれているので、ぜひ進学相談会に参加してみてください。

これまで現代中国学部､経済学部､文学部､国際コミュニケーション学部などから、多くの留学生､日本人学生が入学し､大学院修了後は､大学等の研究機関、国際機関、企業の専門職など、語学力を生かして､様々な分野で活躍しています。

また、毎年提携校である南開大学、人民大学等中国を代表する研究機関から博士生が多数入学し､日本と中国の大学で二つの学位（ダブル･ディグリー）を取得します。この制度は、日本で留学する学生についても開かれていますので、学位取得を目的とした留学も含め、多くの在学生が中国に留学します。研究科が国際交流の場であり、留学環境についても、他の大学に比べて非常に恵まれていると言えるでしょう。

「中国研究」と言う視点

中国研究科は､｢中国研究｣と言う視点から、国際的人材の養成を目指して来ました。昨今のメディアが伝えるように、中国の国際的なプレゼンスが増すにつれて、学際的な地域研究、現代中国研究は更に重要性を増してゆくことでしょう。｢中国研究｣という視点から、学識や経験を有する人材が、今後日本においても、国際社会においても､益々必要になってくるでしょう。

中国研究科は､学内では最も院生の数が多く、社会経済、歴史、民俗学、文学、語学など、毎年、数多くの研究論文、研究成果が出されています。国際的人材が必要とされる現代社会において、中国研究科への進学は、将来に向けて、新しい可能性を開いてくれることでしょう。

「選択」と「継続」で英語を学ぶ

法学部　　小坂　敦子

「英語を勉強するときのキーワードは？」と問われると、私なら「文脈、重なり、夢中になること、選択、継続」を挙げたいと思います。

【文脈と重なり】

「語い力をつけたい」と考え、未知の単語だけを抜き出し、その意味を一つか二つ日本語で書いて、それを暗記しようとする人を時々見かけます。しかし、文脈無しで暗記しても、その単語が実際どのように使われるのかは分かりません。また、覚えた意味と違う意味で使われている場合は、せっかく覚えたことがかえって理解の妨げになってしまいます。

単語を暗記する時間があるなら、その時間を、英語を聞く・読むことに使うことをおすすめします。多くの英語に触れるなかで、よく出てくる単語や表現は、自然と「前も出てきた」と重なりが出てきます。時には、「今回は、前とは全く違う意味で使われている」と思うときもあるはずです。その違いが意識できるのも大切です。

重なることで定着もします。その表現が使われている文脈があるので、その意味の広がりやニュアンスも少しずつ理解でき、自分のものになっていきます。「重なり」を増やすためには、英語に触れる量をどうやって増やすかが一つのポイントとなります。

【試験対策問題集は勉強のごく一部】

検定試験などを受ける場合は、その試験の問題形式、問われているポイント、時間配分などを知るために、過去問や問題集をする必要があります。しかし、過去問や練習問題は細切れの文が多く、長文らしきものがあっても、せいぜい数ページ程度までなので、これだけでは英語に触れる量を増やすのは困難です。

量を増やすための一つの方法は、問題集等と並行して、英語母語話者向けにつくられたものを、上手に選択して、それを毎日継続してインプット（聞く・読む）をすることです。この選択がうまくいくと、集中でき、面白くて夢中になれますから、勉強している時間が短く感じられると思います。

今の時代は、インターネットやテレビなどで、英語のニュース等も読めますし、映像付きで聞くことも可能です。中には英語の字幕の有無が選べるものもあり、英語の学習には恵まれた時代です。（ただ、字幕を出すものの中には、自動的に近い音に変換していて間違いが多いものもあるので注意してください。）

【意外に難しい？選択】

多くの選択肢の中から、英語を視聴する場合も読む場合も、自分のレベル、目標、興味に合った、継続しやすいものを見つけることができれば、英語力はどんどんついていきます。

常に和訳して理解する習慣のついている人には、まず「英語を聞く」時間を増やすことと、訳さずに頭に入りそうな比較的簡単なものを読むことをお薦めします。自分のレベルには少し簡単めに思えるところから始めて、段階を上げていくほうが勉強にも弾みがつくでしょう。英語を聞く場合も、読む場合も、集中が切れてし

まう場合、難しすぎるか、興味が全く持てない内容であることが多いですから、選択を考え直すことも大切です。

英語の苦手な人は、例えば *Time for Kids*（http://www.timeforkids.com/）は子ども向けニュースですが、話題も豊富です。最近、TED（http://www.ted.com/）を活用する人も増えてきました。３分～20分程度のプレゼンが多く、多様なトピックや多様な英語が聞けるのも魅力ですし、英語の字幕の有・無も選択でき、日本語訳で理解を確認できるものもあります。読む練習としては量は足りませんが、うまく選択すれば、細切れの時間の活用にもなりますし、世界も広がります。また愛知大学図書館１階の多読コーナーには、多岐にわたるレベルの本が置かれています。本は短い時間を活用するだけで、かなりの量が読めます。

決まった時間に英語のニュースを見ると、大きなニュースは数日続けて報道されることが多いので単語や表現も重なります。インターネットも利用して、同じトピックの記事を複数読む等、まずは自分の興味のあるニュースからスタートするといいでしょう。

自分にとって必要な表現が多いと思えるものは、繰り返して視聴したり、読み直したりすることで重なりを自分で作り出すこともできます。

集中している時間は（特に聞くスピードでそのまま理解している場合は）、英語を一文一文和訳せずに、英語としてそのまま理解できていることが多いです。英語を英語として理解するようになると、英語のプレゼンなども、聞くスピードで理解できますし、英語で考えているので、発話もスムーズになっていきます。読むときも、後ろに戻って訳していないので、読むのも早くなります。気がつくと、飛ばし読みしたり、頭の中で大切なポイントをまとめたり、内容を批判的に吟味したり等、多様な読み方もできるようになっているでしょう。

このような感覚がつかめるのには、ある程度の量が必要です。当たり前のことですが、まずは「始める」、必要であれば選択を修正しながらも一定の時間は「継続する」、そして集中できる・夢中になれる時間を増やしながら、英語の学習を楽しんでください。

エッセイ：ロレンスの青い花（その１）

経営学部　山田　晶子

D.H. ロレンス（1885～1930）は20世紀に活躍したイギリス人作家で、多くの長編小説・中編小説・短編小説を始めとして、詩や紀行書、随筆集を著し、今日の世界の思想に多大な影響を与えた。代表作に『息子と恋人』、『恋する女たち』、『虹』、『チャタレー卿夫人の恋人』（以上長編小説）、『鳥も獣も花も』（詩集）等がある。彼の思想は一言では言い表せないが、ロレンスの研究者たちが指摘する共通点は、彼が機械文明の発達した時代において人間の直観や本能を重視し、論理では割り切れない人間の自然な部分を見直そうとしたことであると言える。ゆえに彼はその作品中において多くの自然物、つまり木や花や動物や空や海や大地等を象徴的に書きあらわしている。この小エッセイでは彼の作品に登場する「青い花」の象徴性を簡単に紹介したいと思う。取り上げる作品は初期の短編小説である「春の亡霊たち」（“The Shades of

Spring”1914）と初期の長編小説『息子と恋人』（*Sons and Lovers* 1913）、及び後期の長編小説『チャタレー卿夫人の恋人』（*Lady Chatterley's Lover* 1928）である。字数の制限上、今回は「春の亡霊たち」のみについて書こうと思う。

これまで「春の亡霊たち」の題名は「春の陰影」と訳されてきたが、筆者はこの題名が誤訳であると思う。それは辞書の“The Shades”の説明からも明らかであるし、この短編小説の主題を考えても明らかであって、ゆえに筆者は「春の亡霊たち」と訳す。イングランド中部の田舎出身の主人公サイスンは若い頃恋人であったヒルダと結婚せず、大都会ロンドンに出て社会的に成功し、別の女性と結婚をした。数年後に故郷へ戻った彼はヒルダに会おうとする。彼女の家へ行くに当たり、彼は森番ピルビームに出会う。ピルビームはヒルダの現在の恋人である。ピルビームはサイスンがヒルダの家に続く道を行くのを阻もうとするかのようである。しかし結局は２人揃ってヒルダの家に続く坂道を歩いてゆくのだが、途中でサイスンはこの世の情景とは思われぬような美しい場面にでくわす。そこにはブルーベルが咲き誇り海のように溢れていたのだ。ブルーベルはイングランドの田園地帯で春先に咲く有名な青い花である（ヨーロッパでは多く見られるが、特にイングランドに多い）。ロレンスのこの短編小説では、サイスンにとってこのブルーベルの海は、楽園を意味するヒルダの家に続く川であり、亡霊が渡らねばならない三途の川であるが、地獄へ続くのではなくて天国に続く川という意味を持っている。いわばブルーベルの野原は楽園の象徴となる。サイスンはロンドンという機械的な世界に倦み疲れ、亡霊のようになって故郷という楽園に戻ってきたのである。本文からこのブルーベルの咲き誇る場面を引用してみたい。

「おお！まあ。なんと美しいんだ！」彼（サイスン）は叫んだ。

彼は下り坂が完全に目に入る所まで来ていた。広い道は彼の足もとから川のように走っていて、中心を縫うように通る緑の曲がってゆく糸のような道を除くと、ブルーベルが満開に咲いて至る所に溢れていたが、そこを森番は通って行った。平地に到着すると、小道は川のように広がって真っ青な浅瀬になっていた。そこには広々としたブルーベルの淵があった。青い湖を貫いて、氷のように薄く冷たい川のように、なおも緑の糸のような道が通っていた。そして紫色の茂みの下では、花々が洪水となって森林地に広がっているかのように、深みがかかった青色が揺れていた。（拙訳）

この引用に見られるように、ブルーベルは川として水のイメージで表されている。故郷の美しい森に憧れるが、都会人として（つまり堕落した人間として）この森に入ることを拒絶されていると感じるサイスンは、ロレンスの代弁者であり、最終的には『チャタレー卿夫人の恋人』において、メラーズになって、この短編で感じている突き刺されたような胸の痛みを解消する方向に向かうのである。（続）

レアリアのすすめ

テキストのつぎに何をつかって学ぶか？レアリアで中国語を教え・学ぶ可能性

国際コミュニケーション学部　　塩山　正純

テキスト中心の初級からその先の勉強と言えば、例えば、ネイティブとの会話も目標の一つですが、それには話題、そして単語や文法の知識が必要になってきます。そこで、今回は初級のその先にある「レアリア」と呼ばれるナマ教材を活用した学びのポイントを紹介しましょう。

「レアリア」とは「その言語を話す国で、実際に生活の中で使われているものに教育的価値を見いだし、授業活動の中で用いる、生教材、実物教材」つまり「外国語学習目的につくられてない、文字媒体のものすべて」です。例えば「街の看板、広告、標識、メニュー表、料金表、スーパーのチラシなど紙媒体のチラシ、パンフレット、説明書などのようなものから、新聞、雑誌、漫画、エッセイ、小説などの読み物まで」（中西（2014））、さまざまなモノが、「レアリア」として活用できる可能性を持っています。

いま「レアリア」を中国語学習に活かそう！

写真１（レアリア：案内表示もさまざま）

という研究の最前線にいるのが、愛大卒で皆さんの先輩、名古屋校舎の中国語も担当している愛知県立大の中西千香先生です。中西リーダーと荒川清秀（地域政策学部）、明木茂夫（中京大）、植村麻紀子（神田外語大）、そしてわたしの５人のメンバーで、日本学術振興会の科学研究費補助金という研究費を得て、2013年度からレアリア活用の様々なアイデアを考えています。そして研究会「**レアリアのツボ、レアリアのチカラ**」を開催して、役立つ「レアリア」とその使い方の可能性を発信しています。

写真２（研究会は毎回、結構な大入り）

各メンバーの「レアリア」を順に見てみると、まず中西先生のトピックは、スーパーのチラシを使えば、野菜やフルーツから電化製品まで商品の名詞、量詞にとどまらず割引などの商習慣、食習慣といった文化背景にまでアプローチできるということ。荒川先生のトピックは、中国語は看板・標識などのサイン表示で書き言葉が頻

出するけれども、テキストには出てこない、それならば、教師は何らかの形で教え、学習者も工夫して学ぶ必要がある、ということ。

写真３（レアリア:看板の“入内”は書きことば）

明木先生のトピックの漫画は、語学学習の直接のツールとしては厳しいけれども、翻訳という観点からみると、元ネタや異文化間の常識の違いなどの理解に力量とセンスが求められることに気付かせてくれます。

植村先生のトピックは生活に密着した商品パッケージやレシピ。例えば、普段なにげなく食べているカップ麺は、パッケージに印字されている食べ方の説明、保存の仕方、材料、賞味期限など、実に様々な情報の宝庫なのでした。

そして、わたしはと言うと、まず新聞記事を使った学びを提案しています。気の利いた会話をするならニュースくらいは知っておこうと、名古屋校舎の「総合演習」で、「国際交流拠点」に相応しい（？）*The NewYork Times* 中文版（簡体字）を活用しています。例えば、春学期に使った「墓参り代行サービス」の記事タイトル。

清明无暇扫墓。Qīngmíng wú xiá sǎomù.（清明節に墓参りする時間がない。）

なんだが難しそうですが、まず“清明”が暦の二十四節気の一つで日本のお彼岸に相当。“无”は「無」の簡体字で“没有”に同じ。“暇”は“时间”。つまり“无暇”は“没有时间”。書きことばの“无暇”を“没有时间”に変換出来るかがカギ。“扫墓”は「墓を掃除する」で「墓参りする」、これが“暇”を修飾。授業では、こうしたポイントからことばの文化背景と新聞の書きことばから話しことばへの置き換えとアウトプットを訓練しています。

写真４（レアリア：安頓のインタビュー集）

そしてわたしのすすめるもう一つのレアリアはインタビュー記事。おすすめは、安頓という作家の作品です。文法が難しすぎず易しすぎず、中級レベルの復習にも最適です。例えば、ある「負け犬・美魔女」のインタビューの冒頭部分。

“我35岁。（中略）大学**本科**毕业，**外企**中层职员，有**房子**，不用付**按揭**，**独生女**，父母有**退休金**有房子不需要我**养活**。**长相**不算丑。（太字の単語：běnkē 学部、wàiqǐ 外資系、fángzi 家、ànjiē ローン、dúshēngnǚ ひとり娘、tuìxiūjīn 年金、yǎnghuo 面倒みる、zhǎngxiàng ルックス）”

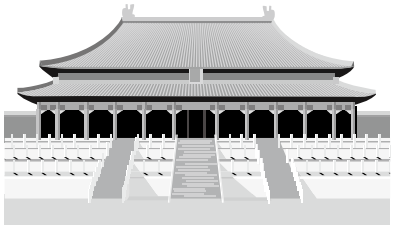
日本語では身近でも、中国語で何て言うのかとっさに思いつかない。そんな単語も文化背景とともに理解できる、という効果もインタビューにはあります。中央電視台の Web 配信や「搜狐」「鳳凰網」の字幕付インタビューを使った

リスニングも同時にやれば、さらに学習の効果も増すでしょう。ちなみに「総合演習」は名古屋校舎、インタビューを使う授業は３年生以上対象で名古屋・豊橋両校舎でやっています。興味があれば履修に関係なく是非ぶらりと参加しに来て下さい。

写真５（参考書:まずは母語を鍛えることから）

最期にひと言。外国語の修得には母語のスキル向上が必須です。参考書には三森ゆりか『外国語を身につけるための日本語レッスン』（白水社）などがお勧めです。「**レアリア**」を活用してぜひ学びのヒントを探してみて下さい。

参考文献　中西千香（2014）「「レアリアのツボ、レアリアのチカラ」～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～」東方書店『東方』395 号



フレンチポップコンクール

文学部３年　中山　遥

昨年の11月に、私はアリアランス･フランセーズ主催の「フレンチポップコンクール」に出場しました。フレンチポップコンクールとは、その名のとおりフランス語の歌を歌うコンクールで、フランス語を勉強している学生なら誰でも参加できます。出場者は、お題となる20曲から好きな曲を１曲選んで歌うことになります。

私が選んだのは、Joyce Jonathan の Ca ira と言う曲でした。明るくノリの良い曲で、メロディーが覚えやすく、すぐに気に入りました。練習は、私の専攻のフランス人の先生に付きあってもらいました。家で曲を聴いてある程度歌えるようにし、先生に発音を直してもらうという具合でした。私の選んだ曲は歌詞が少し複雑だったので、そらで歌えるようになるまで随分時間がかかりました。途中から、同じくコンクールに出場する１年生の女の子と一緒に練習するようになりました。今までは先生の前だけで歌っていたのが、聴き手が一人増えたというだけで、とても緊張しました。本番はもっと大勢の前で歌うのに、こんな調子でだいじょうぶかと少し不安になりました。

大勢の人の前で一人で歌を歌うのは幼稚園のお遊戯会以来でした。そのうえ、本番の私のエントリーナンバーは１番だったので、舞台裏で開会の言葉を聞いている間、緊張しすぎて心臓が止まるかと思いました。しかしいざ舞台に出て歌いだしてしまえばあとは練習とおりに歌うことができ、途中で歌詞がとんだりすることもありませんでした。舞台の照明のおかげで客席が真っ暗で何も見えなかったのも、緊張せずにいつもどおり歌う手伝いをしてくれたのでしょう。

今回コンクールに出場したのは、先生に勧められて勢いで oui と答えたからですが、今は出場してよかったなと思っています。大勢の前でフランス語の歌を歌う機会なんてほとんど無いし、練習も含め、とても楽しかったです。これからは他の歌にも挑戦してみたいなと思います。

ランゲージカフェ、シアタールームを利用して：短大の英語の授業やゼミの改善

短期大学部　ローラ・リー・クサカ

短大では「コミュニカティブイングリッシュ」「英語圏短期語学研修入門」「卒業研究」それぞれの授業でランゲージカフェやシアタールームを利用している。その様子を簡単に紹介する。

発表の場としてのランゲージカフェ

ランゲージカフェを会話の場だけではなく、発表の場として利用してみた。きっかけとなったのは、最近見る授業風景にあった。通常のゼミ教室を利用する場合、多くの学生はバラバラに座り、隣にいる学生同士と言葉を交わすことがない。または友人知人グループだけが固まって雑談するという授業風景であった。教員が発言を求める時以外は学生がほとんど話をしないため、研究発表に対する質疑応答がなかなか成立しないことが多かった。昨年の秋学期に８人の卒業研究ゼミで実験的にランゲージカフェを利用してみた。

環境の違いにより、改善された側面がいくつか見られた。例えば、スペースの利用方法が変わった。今までは教室の椅子を荷物置き場にしていた学生たちだったが、カフェでは別なテーブルに荷物をまとめ、全員が一つのテーブルを囲む工夫をするようになった。また、発表者と聴く者との距離は狭まり、スライドショーのスクリーンやポスターなどの視覚資料が見やすくなったため、話に集中できるようになった。飲み物を準備する際にも自然に会話が生まれ、顔の表情からもリラックスしている様子がうかがわれた。このように授業の活性化・活発化がもたらされたと思われる。

シアタールームで映像教材の有効利用

大スクリーンのあるシアタールームで DVD 教材を利用した少人数授業の例を紹介する。二つのラブストリー作品「Romeo and Juliet」をセメスターの前半に、「West Side Story」を後半に部分的にシアタールームで紹介。宿題として残りの部分を観る方法を取った。大きな映像で観ることによって、より興味を持ち、集中する姿勢が見られた。他の授業時間を学生の質問応答、意見交換、作品の詳しい背景の説明等に充てることで、時間の有効利用につながったと思われる。発表の場としてシアタールームも使用してみたが、発表の際に映像を数分間見せ、ホワイトボードにポスターを掲示することで、より興味を引く発表方法の実践となった。通常の教室ではない環境で、学生がより創造的なプレゼンを行うとともに、積極的な授業参加がもたらされた。

この二つの例から教育環境の大切さを改めて考えさせられた。外国語授業は緊張することが付き物、そのため環境の改善等を含め、いかに学生の積極性を引き出すのかが常に課題となる。今後ともマルチメディアを利用する外国語教授法を工夫・改善していきたいと考える。

愛大生こそポルトガル語を！

共通教育科目（ポルトガル語）講師　　久保原　信司

特に言語に限った話ではありませんが、大学で何を学ぶかを考えるに当たって、これをやったらあれの役に立つ、あれをやっておけばこれだけ儲かるなんてケチなものさしで計る必要はありません。面白そうだなぁ、楽しそうだなぁという心の声に従って、およそ他の誰も関心を示さないようなテーマでも、人類の知的財産に貢献するのだくらいにデンと構えていればいいんです。そういう､いい意味で浮世離れできる、特権的な時間が大学生活というものです。

―＊―＊―＊―＊―＊―＊―＊―

ところが本稿での私は違いますよ。これから皆さんにポルトガル語を勉強してみませんかとお誘いするのですが、ポルトガル語を習得するといかに就職に有利で、どれほど人や社会に貢献できるかということ、とくに愛知県にいる限りポルトガル語を話せるだけで、まず食いっぱぐれないという、実に功利的な夢と希望にみちた話をしたいと思います。

●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●

まず最初に案外多くの人が知らないこと。それは、現在日本で学習されているポルトガル語のほとんどはブラジルのポルトガル語だということです。ポルトガル語というくらいですからもともとはポルトガルの言語なのですが、今日、世界中のポルトガル語を話す人口の80％以上をブラジルが占めています。だいたい２億5000万人中の２億人。理由はお分かりですよね？ブラジルは1500年以来、ポルトガルの植民地として支配されていました。マゼランとかコロンブスとか､いわゆる大航海時代の話です。

ブラジル以外にもアンゴラ、モザンビークといったアフリカの国々がポルトガルの植民地支配を受けましたが、人口比からいってブラジルが断トツ多いのです。ちなみに現在のポルトガルの人口が1000万人、アンゴラが2100万人、モザンビークが2500万人ですから、全部あわせてもブラジルに遠く及びません。これから紹介するポルトガル語学習のメリットのほとんどがブラジルと関係しているのもそのためです。

―＊―＊―＊―＊―＊―＊―＊―

実はそのブラジルと日本はとても深い関係にあります。ブラジルには150万人とも言われる世界最大の日系人社会があります。これは1908年に始まる日本からブラジルへの移民によって形成されたコミュニティーです。

●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●

一方日本のブラジル人に目を向けると、平成23年までの外国人登録者数でブラジル人は、中国、韓国・朝鮮の方々についでずっと３位でした(平成24年にフィリピンに抜かれ４位に)。リーマンショック前の2007年がピークで約31万人。以降、右肩下がりに減り続けているとはいえ、平成25年末で約18万人のブラジル人が

日本で暮らしています。

―＊―＊―＊―＊―＊―＊―＊―

そして都道府県別に見た場合、われらが愛知県こそブラジル人居住者数ナンバーワンなのです。49,000 人という数は､2 位の静岡県（28,000 人)、3 位の三重県（13,000 人)、4 位の群馬県（12,000 人）に圧倒的な差をつけてのぶっちぎり１位！ちなみに愛知、岐阜、三重、静岡の東海４県で 10 万人と、日本全体の 50％以上のブラジル人が暮らしています。さらに愛大の学生向けに内訳を補足すると、愛知県では豊橋市が 15,000 人でトップ、それに豊田市（14,000 人)、岡崎市（9,000 人）と続きます。静岡県トップの浜松市は 9,000 人です。

●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●

どうして東京や大阪じゃないのか？いわゆるデカセギとして、就労目的で来日するブラジル人は、彼らを雇用する製造業の工場がある地域に集中することになります。いきおい世界のトヨタ自動車とその下請け会社がひしめく愛知県がトップなんですね。

―＊―＊―＊―＊―＊―＊―＊―

さて皆さんをじらすように外堀から埋めてきましたが、勘のいい人はお気づきでしょう。愛知大学の豊橋キャンパスでポルトガル語を学ぶことの意味が！日本全国のどの大学よりも、うってつけの環境にあるということが。少なくともブラジル人が身近にいて、活かそうと思えばその場が近くにあるという意味において、皆さんは日本一恵まれた大学生だといえるんです。

●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●

ポルトガル語を身につけることで、ブラジル人と友達になれ、彼らの抱える様々な問題を共有でき、それを取り巻く日本人との橋渡し役を担うことができます。

―＊―＊―＊―＊―＊―＊―＊―

例えば教育現場。日本語の不自由な子どもたちのサポート学級があったり、学校が配布するプリントを両親向けにポルトガル語に訳したりする仕事があります。学校の宿題を見てあげる市民グループがあります。「おはよう」とポルトガル語で声かけしてあげられる保育士は、ひとつ子どもに近づけるでしょう。看護師ならば、異国で病気になる患者の不安を和らげてあげられるかもしれません。企業や自治体も日本語の読み書きができ、ポルトガル語の知識を持った人材を求めています。自分で起業したい人だって、全国に 18 万人のブラジル人マーケットがあることを頭の片隅においておくことで、他社との差別化を図れ、外国人にも優しい様々なビジネス・チャンスを発見できるでしょう。

●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●┈┈●

日本の真裏。飛行機で 24 時間以上かかるブラジルは、実はもっとも身近な国なんです。そしてその扉を開く鍵となるポルトガル語。就職にボランティアに即戦力としてツカエマス！

外国語学習にはランゲージセンターを活用しよう！

１．豊橋ランゲージセンター

ランゲージセンターは、学生のみなさんの外国語学習をサポートする資料室です。

大学で初めて学ぶ外国語、すでに学んでいる外国語をさらにレベルアップさせたい、外国語検定試験の対策を行いたいなど、様々な立場や視点・目的に合わせた外国語資料を約１万点所蔵しています。

各外国語の所蔵点数はこちらです。

言語	所蔵数（点）
英語	2,820
中国語	1,527
フランス語	936
ドイツ語	966
ロシア語	998
韓国・朝鮮語	553

言語	所蔵数（点）
日本語（外国人留学生用）	1,577
ポルトガル語	52
その他の言語	564
NHK語学講座	17
外国雑誌	4

資料の中には、各外国語の専任教員や私達スタッフがおススメする資料もあり、きっとみなさんの学習に役立つ一冊が見つかると思います。

【ランゲージセンター】

LL メディアルーム、シアタールームの充実設備をはじめ、貸出制度もありますので、在学中に大いに活用してください。

当センターを利用している学生の声をご紹介します。（一部抜粋）

☆検定の勉強の際に、ランゲージセンターから色々な参考書を借りることができるのでとても役に立ちます。（文学部２年）

☆いつも楽しく利用でき、とても楽しかったです。僕にとって素晴らしい４年間を送るうえで欠かせない場所の１つでした。（文学部４年）

☆まるで自分のラウンジの様なリラックス感に満ちて居心地の良い場所です。ネイティブの先生達も多く出入りし、外国語に触れられる素晴らしい環境です。映画鑑賞も気楽にでき、かけがえのない空間です。（短大２年）

☆求めている資料をすぐに探し出してくれる。その後は、併設されているメディアルームで心ゆくまで楽しむことができる。（オープンカレッジ生）

２．英語・中国語 e- ラーニング（アルク）

パソコンで外国語を学ぶ Web 学習システムです。ネット環境が整っていれば、24 時間いつでも無料（※在学中のみ）で利用することができます。

リスニングとリーディングをバランスよく高めたい、語彙力を重点的に強化したい、TOEIC の試験対策および高スコアを目指したいなど、

目的に合わせて自由にコースを選ぶことができます。詳細は語研 HP をご覧ください。

３．Language Café

ネイティブスピーカーの教員と気軽に楽しく外国語を学ぶ人気の Café です。お昼休はランチをしながら、夕方は様々なアクティビティを行いながら自然とコミュニケーション力が身につき、語学力が高まっていきます。学部・学年を超えた交流も広がっています。

開催日時は次の通りです。ぜひ気軽にお越しください。

開催言語	昼休み (12:40～13:15)	夕　方 (16:40 ～)
English Café	月・火・水	月・水・金
中文茶座	火	
Café Français	金	火 (金に CINÈ CAFEÈ 開催)

Language Café 参加者の声をご紹介します。(一部抜粋)

～ English Café ～

☆英語で何と言うのか分からない時も、ネイティブの先生が優しくアシストしてくれるので､楽しく会話することができます。(地域政策学部２年)

☆ネイティブスピーカーと話せて、新しい友達もできるし、何より英語を勉強する上で励みになる。(文学部３年)

☆新しい友達もできるし､英語が苦手だけど、何とか伝えようという気持ちがおきる。(文学部１年)

☆資料の多さといい、ネイティブの先生方の充実さといい、本当に素晴らしい空間だと思います。(短大２年)

～ Café Français ～

☆ネイティブの先生と授業とは違う緩い環境で話せるのが良いと思う。また、授業ではあまり学ばない会話表現を Café では補足できるのも魅力の一つです。(文学部２年)

☆ネイティブの先生とだけではなく、他学年の人とも話すことができるので、会話力のアップとともに友達も増えるところが魅力です。毎回のテーマも自由で、DVD を見たりゲームをしたりと楽しく学べます。(文学部２年)

～中文茶座～

☆中国語を学び始めたばかりで不安でしたが、Café で先生や先輩に助けてもらい会話の中で楽しく中国語を学ぶことができます。(文学部１年)

☆私達が知らないような中国文化が知れて、中国語の授業が楽しく感じてきます。(地域政策学部３年)

【English Café：Halloween Party 2014】

2014年度
外国語コンテスト結果報告

去る2014年11月に恒例の外国語コンテストが開催されました。第20回を迎えたコンテストも多くの学生たちが参加し、朗読、暗誦、自由作文スピーチ、歌など、多様な種目でそれぞれの力を発揮してくれました。結果は以下の通りです。

講評等は語学教育研究室HPにて閲覧できます。

英　語

開 催 日 時：2014年11月20日（木）14：00～
参加者総数：6名
課　　題：自作スピーチ
入　賞　者：
　１位　国際コミュニケーション学部3年　丸山　敬弘
　　タイトル“What my life in the U.S taught me”
　２位　法学部４年　徳永　隼人
　３位　国際コミュニケーション学部3年　川津　　求

ドイツ語

開 催 日 時：2014年11月25日（火）18：10～
参加者総数：4名
課　　題：朗読
入　賞　者：
　１位　国際コミュニケーション学部4年　樋口　祐子
　２位　国際コミュニケーション学部4年　倉橋　奈巳

フランス語

開 催 日 時：2014年11月27日（木）12：30～
参加者総数：21名
課　　題：朗読
入　賞　者：
　１位　国際コミュニケーション学部3年　浅野　峻也
　２位　法学部４年　髙瀬　裕介
　３位　経済学部１年　鳥井　優奈

中国語

①対 象 学 部：法学部・経営学部・経済学部・国際コミュニケーション学部生
開 催 日 時：2014年11月20日（木）13：00～
参加者総数：7名
課　　題：朗読
入　賞　者：
　１位　国際コミュニケーション学部2年　宮地　志奈
　２位　経営学部１年　三輪　　悟
　３位　経営学部２年　加藤悠未子

②対 象 学 部：現代中国学部生
開 催 日 時：2014年11月20日（木）15：30～
参加者総数：12名
課　　題：暗唱／自由

入　賞　者：

（課題部門）

１位　現代中国学部１年　森山　麗海

２位　現代中国学部１年　大竹真璃奈

３位　現代中国学部１年　塩井　晴貴

（自由作文部門）

１位　現代中国学部４年　古橋　里紗

タイトル『永远不会忘记』

２位　現代中国学部２年　本竹紗和子

３位　現代中国学部３年　前田　春香

ロシア語

開 催 日 時：2014年11月25日（火）16：30～

参加者総数：48名

課　　題：朗読／歌唱

入　賞　者：

１位　法学部１年　青木　駿

経営学部１年　篠田　竜也

２位　法学部１年　西河　雄紀

経営学部１年　佐藤　貴将

経済学部１年　長友　英心

３位　法学部１年　加賀　大介

経済学部１年　小酒井貴大

経済学部１年　木村　剛志

韓国語

開 催 日 時：2014年11月18日（火）18：10～

参加者総数：24名

課　　題：暗唱／自由

入　賞　者：

１位　経営学部２年　都築奈津美

２位　経営学部２年　野末　明里

３位　経営学部３年　神原　由茉

タイ語

開 催 日 時：2014年11月18日（火）16：30～

参加者総数：36名

課　　題：暗唱

入　賞　者：

１位　経営学部１年　盛田　真央

２位　経営学部２年　柴山なな美

３位　経営学部１年　松井　優治

2015年度　外国語検定奨励金のご案内

	名古屋校舎		豊橋校舎	
言 語	試験名称	基準	試験名称	基準
英 語	実用英語技能検定（英検）	準１級以上	実用英語技能検定（英検）	２級以上
	TOEIC	650 点以上	TOEIC	530点以上
	TOEIC S/W	130 点以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	TOEFL iBT	50 点以上	TOEFL iBT	50点以上
	IELTS	４以上		
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B 級以上		
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	３級以上		
	日商ビジネス英語検定	３級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	４級以上	ドイツ語技能検定（独検）	４級以上
フランス語	実用フランス語技能検定(仏検)	４級以上	実用フランス語技能検定(仏検)	４級以上
	DELF・DALF	A1 以上	DELF・DALF	A1 以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
中国語	中国語検定	４級以上	中国語検定	４級以上
	新ＨＳＫ	３級以上	新ＨＳＫ	３級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	４級以上	ロシア語能力検定	４級以上
韓国･朝鮮語	ハングル能力検定	４級以上	ハングル能力検定	４級以上
	韓国語能力	２級以上	韓国語能力	２級以上
タイ語	タイ語検定	４級以上		
	実用タイ語検定	３級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1 級	日本語能力（JLPT）	N1 級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	450点以上

☆中国語は現代中国学部を除きます

受付期間　名古屋校舎　　2016 年２月１日まで
　　豊橋校舎　　2016 年２月24日まで
　　詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者　学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・オープンカレッジ生等は除きます）

〈編集後記〉

前回は、語学研修・フィールドワーク特集でしたが、今回は、英語圏のほか、ロシア、中国、フランスなどへの長期留学について、学部生の体験談や、先生方ご自身の経験とアドバイスを、掲載させていただきました。外国語能力、異文化経験は重要ですが、更に国際人としての視野を広げ、将来のキャリア設計に繋げるには、専門分野を深めることも重要です。英語の教職、専門職や、研究職などを目指す人のために、本学大学院研究科についてもご紹介いただきました。その他、新しい外国語教育の試みや、役に立つ勉強法を紹介したエッセイなど満載です。先生方の貴重なご意見を、ぜひ参考にして下さい！（Y. K.）

Aichi University Lingua No.6
2015年7月15日発行
名古屋語学教育研究室　〒453-8777　名古屋市中村区平池町４丁目60-6
豊橋語学教育研究室　〒441-8522　豊橋市町畑町１-１
http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/